

『#侍タイムスリッパー』(2024年)をamazon prime videoで視聴した。
監督は安田純一氏、第67回ブルーリボン賞作品賞、第48回日本アカデミー賞
最優秀作品賞を受賞。

本作は2025年3月23日、NHKの「アナザーストリー」で取り上げられている。
米農家と映画監督業を兼業する男性が自主制作した3作目の劇場映画である。
2500万円という低予算で(暑くて利用の少ない夏季を利用)作られた作品だが、
時代劇を愛する人たちによって支えられて制作されたことが「アナザーストリー」
を観て知った。監督の脚本に感銘を受けた東映京都が、脚本がおもしろいとい
うことで、全面協力していたようだ。その協力は屋外のロケ用セットを貸し出
すだけにとどまらず、衣装やメイクなど、さまざまな分野に及んだ。また、斬ら
れ役の福本清三氏(「日本一の斬られ役・殺され役」を演じてきたことから、「5
万回斬られた男」の異名を持つ)のオマージュとなっている。俳優が遺品を着け
て演じている。2024年8月17日に池袋で一般公開後、11月29日には、ロコミ
で評判となり344の劇場で上映となった。

時は幕末。会津藩士・高坂新左衛門と同胞・村田左之助が長州藩士を襲撃した嵐
の夜、高坂は落雷によって現代の太秦の時代劇撮影所にタイムスリップしてし
まい、「斬られ役」として生きていくという話である。

撮影所で騒動を起こした後、見知らぬ現代の街へ飛び出した高坂は、街のシャッ
ターに貼ってあるイベントポスターで自分が幕末から140年後の日本に来てし
まったと知る。高坂は住職夫妻に助けられ、寺に居候することとなる。ある日、
寺で時代劇の撮影が行われることになり、高坂は急遽斬られ役のエキストラと
して出演する。斬られ役たちの演技を目の当たりにした高坂は、これこそ現代に
おいて自分に出来る唯一の仕事と思い立ち、斬られ役のプロ集団「剣心会」への
入門を希望し、殺陣師の試験を経て剣心会への入門が叶う。

そんな中、10年前に時代劇からの卒業を宣言したスター俳優・風見恭一郎を主
演とする新作時代劇映画の制作が発表される。高坂は、風見直々の指名により新
作映画の準主役に抜擢されたことを告げられる。風見は、高坂がタイムスリップ
直前に暗殺しようとした長州藩士・山形彦九郎その人であった。今から30
年前の京都撮影所にタイムスリップした山形は、高坂同様斬られ役から俳優と
しての現在の地位を築いていた。

撮影が進む中で、思いつめた高坂は、風見との映画最後の対決シーンで真剣を用
いることを監督に提案する。撮影当日、高坂は風見に対し、殺陣ではなく仕合を

申し込む。打合せ通りではない立ち回りが始まったと撮影陣は気付くが、止めるなと監督に厳命されたカメラの前で、文字通りの真剣勝負が繰り広げられる。対決の果てに、高坂は風見を実際に斬って血が噴き出て往生を遂げる（この場面を映画館で住職夫婦が観ているところが挿入される）。さて果たして、結末は如何に。

おまけとして、映画公開後も京都撮影所には斬られ役として撮影に臨む高坂の姿があった。屋外オープンセットの小路に、会津藩士・村田がタイムスリップしてキョトンとしているところで映画は幕となる。

時代劇を愛する人々の思いが伝わってくる映画である。日本文化の一つとして残ってほしいと思った。最後の真剣での対決場面は固唾をのんで見守る名場面になっている。